

## 月別概況（令和6年）水産

### 1月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 882 円

一般近海及び小釣では、コチ・平目・ガンの水揚げ安定保合。トラフグ水揚げ安定保合。サワラ安定保合。スズキ多く安値。グレ入荷安定保合。青物では、サバ系先月に引き続き浜値高く入荷が少ない。アジ系も同様。イワシ系は日本海からの入荷安定、値は月通して保合。ハマチ・ブリ、愛媛県から入荷安定こちらも保合。養殖物ではブリ類、相場横這いも年末商戦後の中だるみ感が強く売れ悪し。その他養殖魚も同様の状況である。ブリ以外は高値安定相場が続いている。太物では、よこは長崎が中心。サイズは8k~2k。脂の乗りもよく、浜値も落ち着いているので売りは良好。1月中旬以降、愛媛県産の養殖鮪が出回る。（業者廃業の為）サイズは20k~7k。k1,800円~1,300円売、場外の量販店中心に販売。びん・かつおは全国的に少ないため、浜値が高く売りがついてこない。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,084 円

チリ海域で有害な藻が発生し、銀鮭・アトランが数千トン瀕死する事態となり、相場が上がり厳しい状況が続いている。来月も相場が横ばいと予想。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 605 円

ちりめんの漁は、和田島は少なく、高知が少し漁があり、値は高い。

### 2月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,094 円

一般近海及び小釣では、平目・サワラ高値、ガンゾウ保合、グレ・タコ高値保合。ハゲ類少なく良品高値。スズキ水揚げ多いが保合。甘鯛高値、トラフグは安値が続く。青物では、サバは日本海からの入荷安定、保合。アジは日本全国の浜値が高く入荷ができなかった。イワシ、日本海からの入荷安定保合、ブリは九州や愛媛からの入荷があったがセリ値は安い。養殖物では、養殖物全般、浜値は横ばいである。売れ行きはあまり芳しくない。特にカンパチは高値安定で、引き合

いが弱い。鍋物商材のフグも暖冬のせいか売れは良くない。太物では、よこは長崎県産 2～9 K が中心。中旬以降は漁獲枠の関係で少なくなり、浜値高になった。びん、高知県産 7～10 K が中心。使い勝手の悪いサイズなので続けて売るとなかなか高値が取れない。かつお、高知が中心。いよいよカツオ船がスタートしたので水揚げ量は増える見込み。最初なので浜値は高い。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,376 円

ホタテ、中国への影響も懸念されていましたが、輸出が好調で、浜値が急昇しました。端境期ということもあり、国内在庫は常に品薄の状態が続いています。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 546 円

ちりめんの漁は、高知で少しあり、値は高い。メカブの漁が始まり、昨年より少なく、値は昨年並みです。

### 3月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,047 円

一般近海及び小釣では、平目、水揚げ多いが保合。メバル・油目・カレイ相場少しづつ上がる。オコゼ痩せ多く安値。ワタリ良品高値。赤舌・ガンゾウ保合。トラフグ安値。青物では、サバ全国的に浜値高く入荷が少ない。アジも同じ。ブリ浜値安くなり、入荷量が増えた。イワシは先月と同じく日本海からの入荷安定、値は保合。養殖物では、養殖カンパチは在池不足感があり、相場は強含みである。その他養殖魚は、相場は今のところ横這いであるが、餌代の高騰の影響で今後は強含んでくる。太物では、よこは全国的に水揚げ不安定、需要も減っている為、少ないが高値が取れない。びんは高知が中心だが水揚げ量は少なめ、品揃え程度。かつおは高知が中心。関東からの引き合い強く、浜値は高値、浜値に対して売りがついてこない日が続く。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,228 円

銀鮭の国内在庫は新物へシフトしましたが、安値での販売許可が出ないため、上げ相場になる。また、日本への搬入数量が減少するため、相場は上がる。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 433 円

ちりめんの漁は、全国的に少なく、高知で少しあり、値は高い。わかめの漁は昨年より少なく値は昨年並みです。

### 4月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 719 円

一般近海及び小釣では、平目の水揚げ入荷多く、安値が続く。オコゼ安値。マコカレイ・油目・良品高値、コチ保合。メバル保合、ガシラ下げ相場、スズキ保合。青物では、先月に続きサバは全国的に浜値が高く入荷が少なかった。イワシの水揚げは多いが前売りが売れず、セリになると大きな損害を出した。ブリは全国的に浜値を下げたが、こちらでも需要はなかった。養殖物では、養殖ブリ、産卵の影響で目減りする事もあり各生産者はその前に安値でも出荷したため、値頃感が出て量販店での引き合い強く、値動きが良かった。その他養殖魚の相場は横這いである。太物では、よこは長崎が中心だが入荷が不安定、値段と中身が伴い需要も少ない。びん、高知が中心。水揚げがかなり増えてきて、浜値も下がる。売上にも利益にもつながった。かつおは高知が中心、浜値も落ち着いてきて多売することが出来た。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,110 円

徳島の生タコの相場が昨年と同じ月よりも下がっていた。量も少し多く安定していた。南アフリカの冬漁の相場は漁獲減と為替(円安)により価格が高く、大きいサイズのタコは特に高かった。日本で売る外国のタコは小さいサイズがメインになるところが多くなるだろう。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 394 円

ちりめん漁は全国的に少ない。塩若布は漁が少なく値は昨年より高い。

### 5月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,084 円

一般近海及び小釣では、平目・コチ・チヌの水揚げが多く、安値保合。マコカレイは良品で高値が続く。甘鯛保合。スズキ良品上げ相場、オコゼ安値。青物では、サバは県外からの入荷安定、安値保合。イワシ、日本海からの入荷安定こちらも安値保合。アジは県内外の浜値が高く入荷が少ない。サワラは今年は県内外の水揚げが少なく強保合。養殖物では、養殖ブリ、ハマチは浜値横這い。6月後半には新2年生に代わっていきだろうが輸送費、容器代、餌代の高騰の為浜値も大幅に上がる見込み。カンパチは高値安定だが売れ行き悪し。太物では、よこは全国的に水揚げ不安定。浜値と魚の質が合っていないので売りにくい。びん、高知・和歌山が中心。水揚げ多く浜値暴落。売りの方も暴落した日が続く。かつお、高知が中心。全国的にも水揚げ多く浜値は下がる。売りも安値安定。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 895 円

貝柱は輸出が強く高値安定。オホーツクの漁も開始しましたが加工が進まず製品は品薄状態が続く。冷魚も主要魚種全てで値上げの傾向。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 910 円

和田島のちりめんの漁は例年に比べて少ない。値は昨年より安い。

## 6月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 851 円

一般近海及び小釣では、平目良品高値、マコカレイは前年より高値が続く。釣り物はイサキ・スズキ高値。活アッコ保合。オコゼは安値、甘鯛・鱧保合。青物では、サバは日本海からの入荷安定。保合。同じくイワシも日本海からの入荷安定、こちらも保合。アジ、全国的に水揚げが少なく浜値が高く、入荷は少量。養殖物では、養殖ブリ・ハマチは6月いっぱい3年生での対応となり、相場は横這い。カンパチ・その他養殖魚も横這いであったが、荷動きは全体的に悪かった。太物では、よこは青森10K～3Kが中心。浜値が安く、安定して入荷することが出来た。

びん、高知が中心。水揚げ高く安値安定。かつお、高知が中心。全国的にも水揚げ多く浜値は安値安定。需要はあるが、入荷量も多く、なかなか高値は取れない。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,200 円

チリ産銀鮭は円安が続く安価な原料相場とはならず、トリム製品に関してもさらに上昇すると思われる。紅鮭はアメリカでの漁獲が不漁のため高値となる。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 897 円

ちりめんの漁は、全国的に少なく、値は少しづつ上がっています。煮干しは香川が獲れ、値は昨年より高い。

## 7月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,034 円

一般近海及び小釣では、ハモは水揚げ少なく保合。タコ、入荷安定保合。平目・コチ・アッコの活きは良品高値。マコカレイは水揚げ少なく高値。青物では、サバは浜値が高く入荷安定せず。セリ値が高く、入荷しても少量だった。アジも浜値が高く、同様。イワシは日本海からの入荷安定、保合。養殖物では、養ブリ・ハマチは新物に代わり、3kg前半の魚体となった。物商コスト、餌代の高騰に伴い浜値も高くなった。その他養殖魚の相場は横這いである。太物では、本よこは青森3-4kが中心。入荷が少なく、高値安定、K1500円-K1300円。びん、高知が中心。水揚げが少なく。浜値が高い。なかなか売値がついてこない。かつおは宮城・高知が中心。宮城は需要が増えて高値安定。高知は暴落した日が続く。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,193 円

徳島のタコは去年と比べて水揚げが良く、K150円ぐらい下がった。大きさも各サイズまんべんなくあり、豊漁。それに比べて海外のタコは漁獲高減少、ヨーロッパによる買い占め、円安の影響により相場が高く、特に大型タコは国内在庫が薄い。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 861 円

前半は和田島の漁は少なく、値は昨年より少し高い。後半は漁が多くなり、値は昨年並み。

## 8月

### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,138 円

一般近海及び小釣では、鱧の水揚げが多いが良品が少なく、安値。タコは入荷安定保合。ボーゼの水揚げが多いがサイズが小さく安値。平目・オコゼ・マコカレイの水物保合。青物では、サバは県外、主に九州、日本海からの入荷安定、保合。イワシ、日本海から入荷安定保合。サンマは北海道から少量入荷、浜値に届かず、浜値が去年より安い。養殖物では、養殖カンパチ・シマアジは相場強含み。養殖ぶり・はまちは相場横這いである。各養殖魚はお盆需要もあり、売れ行きは良かった。太物では、本よこは青森が中心、入荷不安定で高値。びんよこ、高知・和歌山の小サイズ(1.0-1.5K)が中心、安値安定。かつおは宮城が中心、水揚げ多く、安値安定。高知のかつおは水揚げが減り浜値が高く、売りがついてこない。

### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,251 円

銀鮭はトリム製品の相場は強含み状況が継続しており、原料共に高値横這い。紅鮭はアメリカ・アラスカ・ロシアの不漁により国内への搬入がかなり少なく、高値が続く。

### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,006 円

和田島のちりめんの漁は昨年より多く、値は安い。

## 9月

### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,021 円

一般近海及び小釣では、活平目・アッコ・タモリ・ガザミ高値、トラフグ・ボーゼ・コチ安値、鱧・サワラ・ハマチ類保合。青物では、サバは浜値が高くて入荷が少なかったが、競りでは浜値に届かなかった。イワシ、日本海からの入荷安定、こちらは保合。サンマは水揚げが少なくて浜値が高く、入荷が少なかったが競りでは安値。養殖物では、養殖ブリ・ハマチは相場横這い。高水温の為、成長が悪くサイズが例年より小さく売りづらい状況である。カンパチは高値を維持していて、荷動き悪し。養殖平目の浜値高騰が止まらない状況である。太物では、よこは全国的に水揚げが少なく入荷不安定。宮城で少しづつ水揚げがあるが浜値が高い。びん、高知中心で小サイズ 1.0-2.0Kの水揚げが多い。暴落した日が

続く。かつおは宮城が中心。水揚げ多く浜値も落ち着いているので売り上げにも利益にもつながった。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,191 円

貝柱は輸出が強く高値から更に上げ相場が続く。冷凍魚、為替は改善されてきているものの、上げ相場。かつおは豊漁で下げ相場である。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,189 円

ちりめんの漁は全国的に少なく、値は少し高くなってきている。

### 10月

#### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,029 円

一般近海及び小釣では、生き平目・アッコ・ガザミ・丸ハゲは良品高値、トラフグ保合。ボーゼ・コチ安値、サワラ・タモリ・ヘダイは保合。ハマチ類安値、シオ保合。鱧は安値。青物では、サバは全国的に浜値が高く、入荷が少なかった。少し荷引きしてもセリ値は浜値に全く届かない。イワシはサイズが小さくニーズに合わない。サンマは入荷はするがこちらもセリ値が浜値に届かなかった。養殖物では、養ブリ類は相場横這いであるが、天然物の入荷が非常に多いのに加えて、高水温が影響して魚体が例年より1kgぐらい小さく、売れ行き悪し。その他養殖魚も相場変わらず。太物では、よこは徳島・高知の小よこが中心、水揚げが安定せず高値。びん、高知1.5kgが中心。水揚げが多く安値。カツオは宮城が中心。安定した水揚げ量の為、浜値が落ち着いている。売上にも利益にもつながった。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,457 円

紅鮭は不漁で上げ相場。銀鮭は新物に切り替わり、若干上げ相場。トラウトは相場横這い。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,161 円

ちりめんの漁は全国的に少なく値は高い。魚卵は鮭の漁が少なく値は高い。

## 11月

### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,113 円

一般近海及び小釣では、カワハギ・長ハゲ・タコ入荷安定保合。ハマチ類多く、安値。釣り平目・コチ入荷安定保合。コショウダイ・スズキ・カマスは多く安値。青物では、サバは主に三陸と九州からの入荷があったが、浜値が高く入荷量は少なかった。イワシは北海道からの入荷安定。サンマは三陸からの入荷が多かったが、月の後半から徐々に入荷が少なくなった。養殖物では、11月に入りブリラウンドの荷動きが良くなった。相場の方は、強含んでおり、12月にかけてさらに上昇しそうである。カンパチは在地薄の為、相場は強含み。シマアジ・平目は一段高である。太物では、よこは島根・長崎が中心、中身もよくなってきて水揚げ量が多いので浜値が安定。びん、高知が中心。本よこの量が増えてきたので浜値が出なくなった。水揚げ量は安定。かつおは宮城・高知が中心。需要が減ってきて水揚げ量が不安定になってきたので浜値高。売りがついてこない。

### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,484 円

アフリカのタコの値上げが止まらない。漁獲量は昨年とあまり変わっていないが、ヨーロッパの買い占めと SMCP 価格の公銭が上がったのが主な影響である。今後値上げは順である。国産のタコは平年並みで、若干上げ相場である。

### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,287 円

ちりめんの漁は全国的に昨年より少なく、値も高い。数の子は昨年と値は同じぐらいである。

## 12月

### 生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,280 円

一般近海及び小釣では、ハマチ類は安値保合、タコ入荷安定保合。平目の入荷が多く安値。コチ・長ハゲ・スズキも入荷が多く安値。ボーゼ・カマス・小アジは入荷安定保合。青物では、サバは全国的に浜値が高く、入荷が少なかった。東北のサバはかろうじて相場が合い入荷したが少量だった。アジは富山の定置物



が安定して入荷、値は保合。ブリも浜値が高く入荷できなかった。養殖物では、ブリの在池不足感が強まり、年末を前に相場が強含んでいる。カンパチも同様である。その他養殖魚は、相場横這いである。ブリ・ハマチの相場は年明け以降、浜値上昇は必須である。太物では、よこは高知・島根が中心。高知の2K前後サイズの水揚げが多く、安値安定。びん、高知が中心。本よこの2Kサイズも多いため、需要少なく暴落した日が続く。かつおは高知・九州のかつお船が終わっていき、水揚げ少ない。浜値が高く、売りがついてこない。

#### 冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,711 円

ホタテ貝の相場が上がり続けています。原料も少ないことに加え、中国向けの買付が強い為、値上げは続くと予想されます。サバ製品も原料が少なく、1-2割の値上げになりそうです。

#### 加工水産物

1kg 当たりの平均単価 1,324 円

ちりめんの漁は全国的に少なく、値はいつもより高い。いくらのは漁は少なく値は高い。